

自主防災隊通信 冬号



町民の皆様へ

R3.1.吉日

明けましておめでとうございます。コロナ禍で大変な日々をお過ごしのことと推察いたします。そのような中で昨年11月には防災訓練を行いました。町民の皆様には「おうちで防災訓練」をお願いしましたが如何でしたでしょうか。非常持出品袋は備えてありましたか？その中身は大丈夫ですか。今回は「非常食」について今一度確認をしてみたいと思います。

和合町自主防災隊 隊長 仲田 始

1 非常食の備蓄はなぜ必要なのでしょう？

浜松市の被害想定によりますと、災害により交通網の遮断はもとより、通信網や水道、ガス、電気などのライフラインも3日から一週間位は途絶えることになるようです。そうすると当然、公的な物資の支給も途絶えることになります。この間は自宅で、そして地域で確保している非常食で命を守っていく事になります。

まず、地域にどのくらいの非常食が確保されているかご覧ください。

地域における非常食備蓄状況

場 所	内 容	アルファ化米 (食)	乾パン (缶)	飲料水(500ml/本) (本)
和合町防災倉庫		1,200	1,200	1,200
避難所(泉小) 和合分		1,625	—	480
計		2,825	1,200	1,680

※避難所(泉小北校舎)にはアルファ化米 3250 食、飲料水 960 本ありますが、泉自治会と共有のため和合分は1/2を計上しました。また、水は泉小受水槽他に約153 m³ (500ml 306,000 本分)あります。

上表から推察すると、災害時に和合町民約1万人の内、1割の1千人が避難したとして、アルファ化米と乾パンで約4000食ですから、4食分しかありません。和合町内4000世帯に配分すると世帯当たり1食分となります。

非常食は各家庭で備蓄しておくことが必須です。

上表からわかる様に、地域に備蓄されているものは、地域の人口からすると極わずかですから、**自分達が食べる非常食は各家庭で備蓄することが必須**となります。約一週間分の常時備蓄をぜひお願いします。

2 ローリングストックをお勧めします！

各ご家庭で備蓄する非常食としては、アルファ化米の個食、缶詰、乾パン(ビスケットも可)、インスタント食品などがあります。従前では非常食というと保存期間ギリギリまで保存しておいて、期間が過ぎたら廃棄してまた新しいものを購入する、といった考えが一般的でしたが、最近では非常食も美味しくないので通常の食事と遜色なく食べられるようになってきているので、日常の食事として食べながら、次の備蓄品を購入する**ローリングストック**が新たな備蓄方法として定着しつつあります。ぜひ、定期的(防災訓練の日など)に災害時を思い浮かべながら非常食を食べ、新たな気持ちで備蓄品を購入し災害に備えるようにして下さい。



ローリングストックしていますか！



※ 家屋の中の見やすい場所に掲示しておいてください。